

どんぐりころころどこいった？

山岸文子（千葉市）

日 時：2013 年 11 月 17 日（日）10：30～12：00 天候：晴

参加者：8 名（大人 6 名 子ども 2 名）

担当指導員：松本 美千代・山岸 文子

すばらしいお天気に恵まれた。大草の成り立ちと注意事項をまず説明。担当以外の指導員から提供のあったツブラジイと、関東に普通に見られるスダジイを見比べる。駐車場のシラカシとコナラのドングリと芽生えを観察する。

観察路を歩き始めるや否や初参加の 2 歳の坊やが両親の手を振りほどき、タッタカタッタカ駆け出していく。落ち葉のカサコソいう音がたまらない様子。彼が突然しゃがみ込んだ。わっ大きなミミズ。やはり動物の方が興味が湧くらしい。ドングリが大好きで慎重派の 4 歳のお兄ちゃんとおろおろする両親。常連の参加者の助けを借りながらそれぞれ別々に対応する事にした。

めじろんばで常緑のシラカシと落葉樹のコナラ、枝の伸び方の違いを見る。シラカシとアカガシの殻斗の手触りを確認する。穴のあいたドングリも見つかり、幼虫がドングリの中で成長する例として、シギゾウムシの仲間の写真を示す。

スダジイを丹念に拾うお兄ちゃん。モグラ塚に手を突っ込む 2 歳児。そうよね。ミミズが居るんだもの、モグラだって元気に生きているよね。林縁にはオオアオイ トンボが日なたぼっこをしている。ノハラアザミの花に色鮮やかにキチョウ。落ち葉の下にカブトムシ幼虫が見つかる。

田んぼの中に落ちたドングリが真っ黒に変色した訳は？
ドングリの成分タンニンと田の泥の鉄分が反応して黒変したと説明。鉄細菌（鉄還元菌）の様子も見る。

「田んぼが油で汚れていると誤解していました」と参加者。

「無農薬で米作りをしている」と話すと、

「信じられない。米を食べる虫がいるのに農薬を使わない
どうするんですか」「虫を食べる虫や蜘蛛や蛙がいて、それを
食べる鳥がいて、更に猛禽類がいて…バランスが保たれて
いる場所ですよ」

待ち構えていたかのように空高く舞うノスリ。ドングリの
実る木がある大草の豊かな生態系を理解して頂けた事と
思う。お土産に松本さん手作りのドングリと葉っぱのミニ
図鑑。皆ニコニコして持ち帰った。

